労働者健康福祉機構
燕労災病院

〒959-1228新潟県燕市佐渡633
TEL:0256(64)5111
FAX:0256(63)9819
ホームページ http://www.tsrh.jp
Eメール tsubame@tsrh.jp

(燕労災病院院外広報誌)
発行日　2011年1月号
発行者　宮下　薫

燕労災病院の理念

◎働く人々と、地域の人々のために最善の医療を目指します。

病院の基本方針

◎安全で質の高い医療の提供を目ざします。

◎勤労者の健康管理を支援します。

◎医療に関する教育・研修を支援します。

◎地域の人々の健康を守り、福祉に寄与します。

目次:

*病院長より: 年頭のご挨拶	1
*医療安全管理者より: 北陸3労災病院　医療安全相互チェックについて	2
*寒い冬に心を温かくさせたクリスマスコンサート *医療機器管理システム導入について	3
*編集部より	3
*外来診療科別担当医師表	4

燕ろうさいつうしん

【年頭のご挨拶】　燕労災病院院長　宮下　薫

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。平成23年の年頭にあたりましてご挨拶申し上げます。

平素より当燕労災病院をご利用頂き、またいろいろご支援を賜り有難うございます。われわれの労働者健康福祉機構も独立行政法人化して７年経過し、政権交替後、昨年４月の「事業仕分け」そして「独立行政法人整理合理化計画」に沿って個別に病院が評価されることになります。当院の過去の資料をみますと医師等の不足が叫ばれるなか政策医療の推進、地域医療への貢献を目標に頑張ってきたことがうかがえます。しかし、われわれにとりましても十分だったとはいえず、皆様方にも御不満を与えてしまったこともあっただろうと危惧しておりました。

とはいえ、年も改まりました、病院を取り囲む環境は厳しいものがありますが、気持ちを新たに前に進むしかありません。一昨年７月に県から地域支援病院の認定をして頂き、暮れの12月には日本病院機能評価機構のver6.0の機能評価の受審と病院の質を落とさないように努力して参りました。また今年はオーダリングシステムから電子カルテ化に向かって職員一同取り組んでいる真っ最中です。これらはみなこの地域の皆様に良い医療を提供したいという気持ちが込められています。

さて労災病院といえば、先ほど申し上げた政策医療の推進があります。具体的にはこの地区に多かった指の切断などの外傷を主とした「勤労者医療」、環境の改善で減少したというものの時に患者さんが搬送され、少ない医師数ながら、懸命に再接合や機能の改善などに取り組んでいます。そのような努力もあり、職業に関連した労災疾病等の13分野である「職業性の四肢の挫滅損傷及び外傷性切断に対する治療法および地域医療連携体制の構築に係る研究・開発、普及」の研究テーマを機構本部からいただき研究を進めています。そして生活習慣に関係した循環器、消化器、内分泌系、の神経系あるいはがんなどの疾患に対して専門性の高い医療の提供を目指しております。県央地域の医療、特に救命救急センターをどうするかいろいろ議論されていますが、中核的な病院として努力していくつもりでおります。

医師が増員されればより「安心な医療」を受けることにつながります。新臨床研修制度などの影響もそろそろとれてくるのではないかという期待もあります。医師の招聘に最大の努力をしていますが、一病院の努力ではなかなか難しく、地域住民の方々からのご支援が是非とも必要です。今後も、皆様方からのご助言・ご協力等をお願いしつつ、平成23年の「卯年」の今年が皆様にとりましても病院にとりましても「飛躍」するよい年になる事を祈念して新年のご挨拶を申し上げます。

【北陸３労災病院　医療安全相互チェックについて　】

燕労災病院　医療安全管理者　　藤田ミチ

燕労災病院では、厚生労働省が定める医療安全推進週間にあわせ、平成１６年度から上越市にある新潟労災病院と富山県魚津市にある富山労災病院との３病院間で医療安全相互チェックを行ってきた。他施設の職員から客観的視点で評価してもらうことは、気付きが生まれ改善に繋がりやすいという利点があり、その実績・効果が機構本部に認められ平成１８年度から全国の労災病院でも行われるようになった。

今年度は「転倒・転落、身体拘束」をテーマに、１１月１２日（金）午後、富山労災病院の医療安全担当の医師・リハビリテーション技師・事務・看護師（医療安全管理者）に３階西病棟と２階西病棟とリハビリテーション科を巡回してもらい、病室の環境や医師・看護記録から転倒・転落に関して予防策がとられているか、患者さまに身体拘束をする場合のマニュアルの有無や観察がされているか、解除基準があり評価しているかをチェックしてもらった。リハビリテーション科では訓練する際に注意している点や訓練室の環境、物品管理等をみてもらい、最後に会議室で講評・提言をうけ終了となった。今年度は大きな指摘がなく概ね良好との評価であった。

また、１１月２６日（金）の午後、当院の医療安全総括責任者である小方副院長とリハビリテーション科花岡主任作業療法士、内田医事課長と藤田医療安全管理者の４人で新潟労災病院を同様にチェックしてきた。

北陸３労災病院の医療安全相互チェックは、回を重ね双方にいい効果をもたらしてきた。今後は近隣の病院と相互チェックができるようにしていきたい。

医師・看護記録をチェック中

リハビリ科をチェック中

富山労災病院の職員から講評

講評を受けて、小田副院長の挨拶

【寒い冬に心を温かくさせたクリスマスコンサート】

平成２２年１２月２１日（火）に当院外来ホールにてクリスマスコンサートを開催しました。バイオリン講師でいらっしゃる新田愛先生をお招きし、クリスマスメドレーを含めた６曲を演奏していただきました♪

当日は悪天候にもかかわらず多くの方がいらっしゃり新田先生による美しいバイオリンの音色に会場中が聴き入っていました。また、曲の合間にはバイオリンに関する豆知識と２種類の弾き方なども紹介していただきました。何と、バイオリンの弓は馬のしっぽ（毛）で作られているそうです。

また、弓もまとめて留めてあるだけで、留め具を外すと解けてしまうんです!これには驚きました。ピアノ伴奏による演奏もされ、一緒に手拍子を打つ方や口ずさんでいる方もいらっしゃりあっという間の３０分でした!!最後は全員による「きよしこの夜」を新田先生の伴奏のもと合唱し、大盛況のうちにコンサートは終了いたしました。

【医療機器管理システムを導入しました 】～臨床工学室より～

院内には人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ等さまざまな医療機器があります。臨床工学技士はこれらの医療機器を操作、保守管理することが業務です。

医療機器をバーコード登録し、貸出・返却業務や点検業務を一元管理できる医療機器管理システムを導入しました。貸出・返却業務は、看護師がタッチパネルで行い、各機器のバーコードをバーコードリーダーで読み取ります。画面上の機器と合っていれば完了になります。従来のホワイトボードによる貸出・返却業務に比べ、作業がスムーズになりました。技士の点検業務では、機器の点検や修理履歴が簡単に把握できるようになり、機器更新時期の選定や機器使用中、トラブルが発生した場合の対策に活用できます。

【編集部より】

明けましておめでとうございます。お正月は例年に比べ雪も少なくゆっくり過ごされたのではないでしょうか。政治や経済面では前途多難な幕開けのようですが、明るい未来を見据えてみんなで協力し、一歩でも前進していきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします　（記：　K　）